

## アラウンド・ザ・ワールド 2

Around the World

第104回

## 長寿リスクとは(前編)

アラウンド・ザ・ワールドPart2の104回目は、長寿リスクを取り上げる。保険会社を含む日本企業が長寿リスクの脅威にさらされている一方で、リスク管理の新たな手法を探求する機会でもある。前編と後編の2回にわたりこのテーマを考察する。

(RGA再保険会社提供)

数十年以上も前のこと。日本の少子高齢化と余命の伸展が長寿リスクの要因として注目を集めた。保険・投資専門のニユース、データ分析・サービスを扱うアルテミスは2012年3月号で「長寿リスク移行市場が発展するにつれ、ビジネスチャンス特定するため、目を離すべきではない」としている。この記事は、どのように市場が形成され、なぜ日本の保険会社の長寿リスクの管理が重要なかに言及している。

## 長寿リスクの種類と重要性

長寿リスクは、三種の分類に分類できる(別掲図参照)。

▽見積の誤りのリスク: 誤った引受に伴うリスク。例えば、特定集団

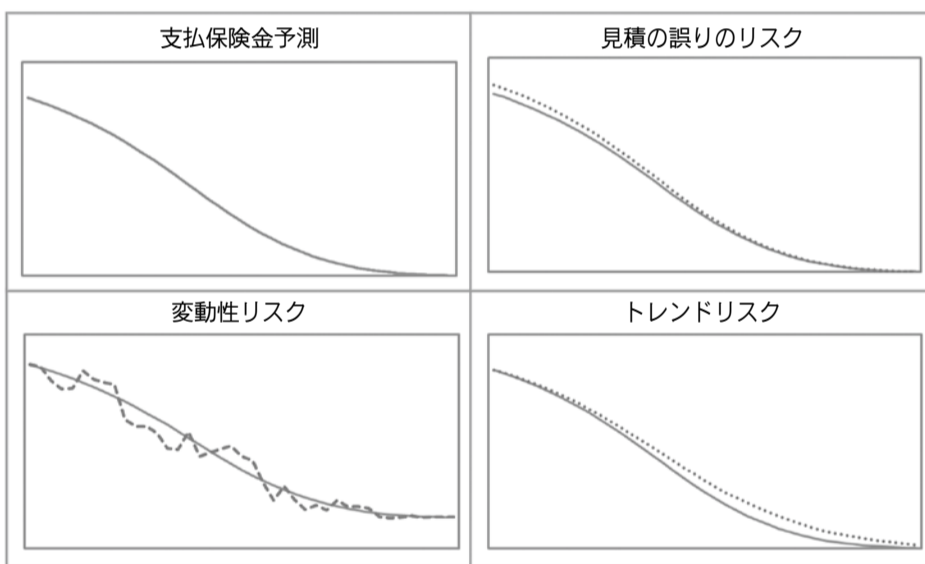
## 日本におけるビジネスチャンスの理解

将来的な年金債務は、世界全体で非常に大きなリスクを呈する。15兆ドルを超える確定給付年金。5兆ドルを超える年金保険。政府の年金負債(資金調達の不確実な100兆ドル超を含む)が主要因だ。長寿リスクは過去

がどの程度長生きするかアンダーライターが的外れの予測をした場合に起きる。

▽変動性リスク: 無作為の変動によって生じ

図 年金支払予測額対リスク別年金支払い実績



ンドリスクは、予測していなかった医療や技術の進歩により、死亡率に継続的に大きな逸脱が生じる場合に起こる場合が多い。

図の実線は年金支払予測額を示し、点線はリスク別に年金支払い実績額を示す。長期的な推定値の誤差には長期的な経済負担が伴うため、金融機関にとって大きな経済的影響につながる。

他の先進国と同様に、日本市場でもトレンドの予防や治療の向上③人工知能や機械学習等、技術の進歩④メッセンジャーRNAを用いたワクチンの急速な発展⑤気候変動⑥の五つがある。

肥満の減少に効果のあるGLP-1薬の効果が死亡率の改善要因として世界的に注目を浴びているが、日本では余命の伸展への影響は少ない可能性がある。日本の肥満人口の割合は、例えば米国と比較すると、はるかに少ない。24年5月時点で米国成人人口のほぼ42%が肥満と認められる一方で、日本では4.5%に過ぎない。

## モデリングの課題

アクチュアリーは、膨大な時間を使って長寿リスクの理解、モデル化、最小化を試みてきた。人工知能や機械学習といった技術はより正確なモデルの構築に有益だが、モデリングそれ自体は、サイエンスでありながら、アートでもある。

## 対策

特に日本の状況に当てはまることだが、世界各国で余命は顕著に伸展している。一方で、将来余命のモデル化は難しい。将来死亡率の理解や予測は容易ではなく、一般に、現在および過去の従業員に対する年金負債を抱える企業の専門分野ではない。企業は市場に提供する商品・サービスを、保有する複雑な長寿リスクの管理に専門性を持つわけではない。

リスク分野にあまり注力しておらず、年金保険よりも従来の生命保険が主力商品の場合はなおさらだ。長寿リスクに対する豊かな知識と知見を持つ保険会社や再保険会社が協力することで、リスク移転がお互いに魅力的な選択肢となるだろう。後編では、そのような年金リスク移転および財務強化の手法を紹介する。

◇

【パトリック・チャン氏のプロフィール】英国アクチュアリー会の正会員。長寿リスクに関するライティングの専門家としてキャリアを構築し、年金分野のコンサルティング業務や元再保険会社の年金分野に携わる。2012年にRGA入社。現在は、ロンドンを拠点に、多数の地域・国に対する長寿リスクに関する商品やリスク、保険数理上の仮定、データ、モデリング等を管轄している。



チャン氏



新野氏

執筆者

RGAシニアヴァイス・プレジデント  
ヘッド・オブ・ロンドン・エビデンス・プロダクト

パトリック・チャン

日本語訳

RGAリインシュアランスカンパニー日本支店 通訳

山本あゆみ

日本語監修

RGAリインシュアランスカンパニー日本支店  
エグゼクティブ・ディレクター ビジネス・ディベロップメント部

新野豊太郎